

当科で抜歯を受けられた患者様へ

この度、東京歯科大学水道橋病院口腔外科において下記の内容にて研究を行うこととなりました。内容をお読みになり、ご理解いただけましたら、研究にご協力くださいますようお願いいたします。

研究課題：当科における直接経口抗凝固薬（DOAC）服用患者の抜歯に関する検討

2011年から2013年にかけてワルファリンカリウム錠に代わる直接経口抗凝固薬(DOAC)が開発され、内服されている患者様が年々、増加傾向にあります。DOACを内服されている患者様への歯科治療はワルファリンカリウム錠を服用されている場合と同様に対応することが推奨されておりますが、服用の継続や中止に関する報告は少ないのが現状です。今後、科学的根拠に基づいて診療を行っていく必要があります。今回、当科でDOACを内服している患者様に対する歯科小手術における現状を把握することを目的に研究を計画致しました。

詳細は以下に記載致しましたので御確認ください。

1. 直接経口抗凝固薬(DOAC)はプラザキサ(ダビガトラン)、イグザレルト(リバーロキサバン)、エリキュース(アピキサバン)、リクシアナ(エドキサバン)です。
2. 本研究の対象は2018年4月から2019年3月までの1年間に直接経口抗凝固薬(DOAC)を内服され、当科で抜歯を行った患者様です。研究期間は倫理審査委員会承認後から2020年3月31日までです。
3. 対象となる患者様をカルテより抽出し、性別、年齢、既往歴、処置内容、DOAC休薬の有無、術者経験年数、手技(歯肉切開、骨削去の有無)、血液検査結果(肝機能、腎機能の指標)、術前抗菌薬の使用の有無、術後鎮痛薬の種類、処置時間帯、局所止血法、後出血の有無を調査致します。
4. 今回の成果は学会や専門誌の論文発表に使用されますが、名前や個人を特定する情報が公開されることはありません。
5. 研究への協力は患者様の自由な意思で決定できます。研究への協力を希望しない場合はその旨を研究責任者に申し出てください。その際は、不同意書をお渡ししますので、必要事項をご記入の上ご提出をお願いします。また、協力が得られないことで診療上にいかなる不利益も被ることはありません。
6. 本研究は、東京歯科大学倫理審査委員会の審査を経て、学長の承認を得ております。
7. 本研究に関するご質問やご意見がある場合は、下記へご連絡下さい。

お問い合わせ先

東京歯科大学 口腔病態外科学講座
研究責任者(情報管理責任者) 星野 照秀
所属長 片倉 朗
連絡先 03-6380-9246